

## 知床連山縦走（羅臼岳1660m～硫黄山1562m）

2017年8月15日(火)～16日(水)

メンバー：磯部S(リーダー・記録)、磯部N

その生物多様性などが認められ、世界遺産とされている知床の自然。西表島の手つかずの濃密なジャングル原生林もダイナミックでおもしろかったけど、北の生物たちが寒さから身を守りつつ生き抜いている力強さも感じ入るものがあった。

### 【登山前々日】

女満別空港でレンタカーに乗り換え、いよいよ北海道、道東の旅八日間が始まる。まずは飛行機に持ち込めなかった

ガスカートリッジを一個確保し、一路知床ウトロに向かう。オホーツクの暗い海（曇りのせいだったかもしれないが・・・）

を左手に見て、原野の中をどこまでもまっすぐに続く信号のない道を快適に走る。

こんな何もない先に街があるのかと不安に思う頃、ウトロの港が見えてくる。いいなあ～このただっぴろさ！



●ウトロの「国設知床野営場」

とても広く整備された草地のキャンプ場で、木陰もたくさん有りここで2晩過ごしたが、ファミリーキャンパーのマナーの悪さで寝不足、これ以降キャンプ場はやめる。



●テントから10mも離れるとエゾシカの群れ

野営場の山方向は、ヒグマ対策で電気柵に囲まれているが、しづといシカはご覧の通り。

#### 【登山前日】

本当は今日から登る予定だったが、悪天予想で1日延期した。

目的の一つだった、知床岬までの小型船クルーズに乗る。途中、海岸線にいるかわいいヒグマを見つけ乗客は大盛り上がり。



●左端が、知床岬。1人デッキで「知床旅情」を歌い、じーんとくる。



●知床財団が運営する「知床自然センター」にて、3歳ほどのヒグマの毛皮

午後は、ヒグマのレクチャーと、熊撃退スプレーをレンタルするため（残念ながら飛行機に持ち込めなかった。。）

ウトロの近くの「知床自然センター」へ。とても勉強になった。

ここでのレンタル品で「テント周りへの電池稼働の携帯電気柵」があったのには驚いた。登山道のない知床岬への冒険の旅には必要なのかも。その記録にはヒグマに何十頭と出会うのがあたりまえみたいだし（ちょっとムズムズ）。

【8/15（火） 曇り時々晴れ】

早朝野営場を撤収し、羅臼岳北の登山口、岩尾別の「木下小屋」に向かう。実際にレンタカーをデポした場所は今期休業中の「ホテル地の涯」の駐車場。例年だとそこに向かう林道に違法駐車の流れが出来るといわれる。



●「木下小屋」にて、ログハウスで感じ良さそう

登山届けのブースには、熊出没箇所地図があったが、いっぱいすぎて笑えた。



● 高山植物がいっぱい！

北海道は緯度が高く、森林限界が1500m弱なため、3時間も登ればもう樹林帯を抜け出す。明るく開放的だ。

まるで日本アルプスの感覚だが、山容は穏やかであるく、とげとげしくない。これが北海道か！



● 羅臼平キャンプ場の「フードロッカー」。

クマにテントを襲われないために、100M程離れた場所に設置されている。

食料、食器など匂いが漏れないようにして保管する。ちなみに写真のデポザックはルール違反。クマを誘引するため。

ハイマツの主稜線にでると、そこはいよいよ縦走路の起点、羅臼平だ。まずは羅臼岳のピストン、余分な食料、水をヒグマ対策の「フードロッカー」に入れ荷を軽くする。途中水は無いものと仮定し4 L 担ぎ上げたため大変だった。



●風にゆれるチングルマの綿毛・・・いっぱい群生地があった。



● 活火山であることを主張する、溶岩ドームの羅臼岳頂上



● 頂上から一瞬だけガスが切れて硫黄への縦走路を垣間見る



●チングルマの花



●アオノツガザクラ



●戻って羅臼平・・・ここで事件発生！

羅臼平キャンプ場でひと休憩後歩き始め、いよいよ硫黄山に向けて縦走開始だ！と気を引き締めるまもなく先頭の磯部N氏がこわばった顔で「前にくまがいる……。」

ちゃんとセオリー通りに小声でわたしに話した。ひきつって悲鳴をあげる余裕もなかったのか、とにかく、よくぞいつものように「ギヤー」と言わなかったのは助かった。

かれは10数m先の登山道に突然現れた。つい数分前に他の登山者が何人も通過している場所だ。「知床自然センター」の毛皮より二回りは大きかった。

即前に出て、笛を吹こうとした。何秒の間に、後へゆっくりと向きを変え消えていった。一瞬の出来事だった。残念ながら、写真は無い（あたりまえだ）。

その後、これからさらにヒグマのすみかに潜り込んでいくような縦走路に、2人で突っ込んでいくのちよっただけ躊躇したが、3000円でレンタルした熊撃退スプレーの安全ピンを外し、ガンマンの体制で歩き始めた。



●すでにクマは忘れ（？）うしろの三ツ峰を越えて快適な縦走路に思わず笑みのN氏。



●三ツ峰キャンプ場 水は涸れていた。単独、2人組といっしょ

今宵の宿は、縦走路中、3箇所所有指定キャンプ場の一つ。もちろんフードロッカーがある。  
羅臼岳ピストンは、100名山だけあって多くの登山者がいたが、縦走者は数組だけで、静かな山行が

楽しめる。

なにより、その山域の特性を感じるにはやっぱり縦走だ。

1500m前後高度を上げただけでハイマツ帯となり、ゆったりとしてのびやかな稜線が続く。

可憐な高山植物が咲き乱れ、さわやかな風に包まれる。ピストンだけならたぶん本州の3000m級の山を登った感じと同じ受け止め方で終わるのではないだろうか。

これではもったいない！

夕食は湯を沸かしただけでアルファ米と吸い物のみ。極力匂いを出さないことが重要で、食べたあとはテント内を喚起した。

他の二組はさらに慎重で、テントから外れた場所で食事をしていた。まじめだ。



●吹き荒れるガスの中、オホーツクの海に沈む夕日。

テント場からわずか100mの地点でこの光景…。二つの海にはさまれた知床縦走ならではの感動体験だ。

<タイム> 岩尾別、H地の涯P (6:30) – 羅臼平 (10:50) – 羅臼岳 (12:40) – 羅臼平 (14:10) – 三ツ峰キャンプ場 (15:15)

【8/16 (水) 曇り時々晴れ】



● ずっと続くハイマツの海原、ひざ丈から背丈程まで。道ははっきりしている。

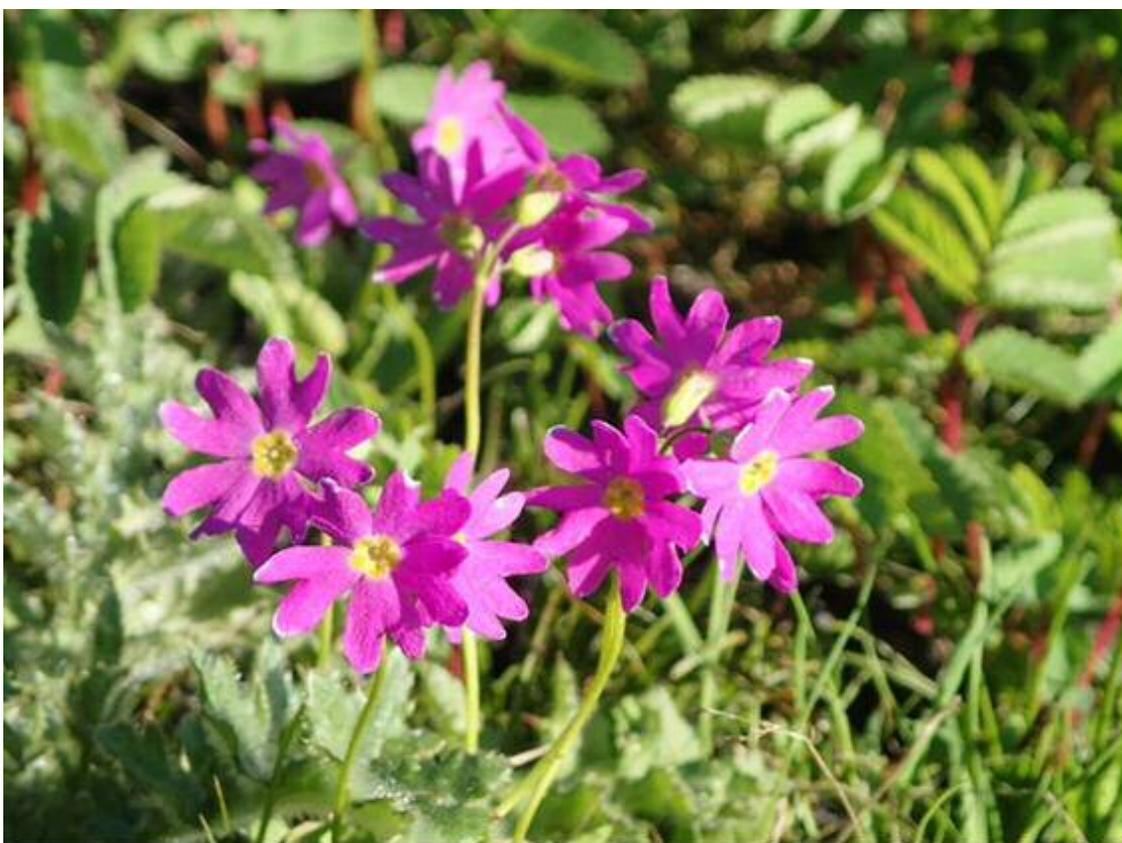


● 縦走路の遙か先に、硫黄山が（左端）。と、とおい・・・。

ちなみにもうひとつのキャンプ場、ニツ池の水場である池は、十分な水を蓄えていた。



● 振り返って、最奥が羅臼岳。雲海が太平洋から押し寄せるダイナミックな光景。



● エゾコザクラ



●クロマメノキ ..ブルーベリーの原種。甘酸っぱくて美味しかった。



●いろんな植物に出会え、写真を撮りまくる。「祈り」を捧げているのではない。



●見わたす草原に引かれた縦走路。気持ちいいです。



●知円別岳の山腹を横切ると、景色ががらっと変わり、活火山の名残が。このザレ場ですべて、ポールを折ってしまった。残念！



●硫黄山ピーク。岩山だった、白いガスの中だった・・・。



●下りは大岩ごろごろの涸れ沢の中を歩く。膝痛の方にはきつい。



●オホーツク海に続く下山路。上半分をは空ではなく、海です。

<タイム> 三ツ峰キャンプ場（4:25）－硫黄山（11:45）－カムイワッカ硫黄山登山口（16:15）

■標準的知床のヒグマ・・・ たった1回の経験でなんですが、地元の人やタクシーの運転ちゃんに聞いたこともふまえて。

・たくさんいるが、おとなしい。人慣れしている。人のニオイや笛、スズに驚かない。

無視されるか、無視する。海辺でサケほか、山で木の実など比較的えさはある。過去に人身事故は無い。

■重要な対策・・・「ヒトに接触すると、おいしいものを持ってる」ということをヒグマに学習させないこと。

-----  
-----

【登山翌日・・・おまけ】

\*「知床五湖」見学



●見学のための高架木道。ヒグマが登って来れないよう電気柵有り。



●雲に隠れた知床連山。右端が羅臼岳で、左端が硫黄山。くまにあって当然だなあ。

以上